

株式会社ジェイコム湘南・神奈川 横浜テレビ局・南横浜局

2021 年度 放送番組審議会 議事録

2021 年度の放送番組審議会は、2022 年 3 月 10 日（木）にジェイコム湘南・神奈川 横浜テレビ局で開催された。

＜放送番組審議会委員＞ （五十音順）

—ご出席—

新井 克弥 様	菊嶋 秀生 様	佐藤 千香 様
土屋 広次郎 様	鳥居 伸一郎 様	中村 牧 様

事業者側から局の現況、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】（菊嶋会長による進行）

委員 TV 業界が全体的に低調している。TV を所有せず主に若者が視聴する動画サービスと民放の中間に J:COM が位置している。そのアドバンテージと考えられる地元密着という方法が一番有効的だと考えられる。コンテンツをもう少し尖った内容にして個性を出すと、若者を引き付ける番組となり、ローカルに取り込めるのではないか。ただ、高校野球のような固定視聴者層がついている定番番組は継続して行ってほしい。

事業者 若い人達へのアプローチは非常に課題であると考えている。番組を作る制作スタッフ陣も高齢化しており、どういう方法で発信すべきかと発想がなかなか出てこない点が現状力不足である。今後課題として取り組んでいかなければならないし、何らかの形で取り上げていくようにする。

委員 コロナの影響でインタビュー等ができず放送の制限が出てきていると思うが、一方で、報道しないといけない部分もあると思う。今後どういうウエイトで放送を行っていくのか。また、青少年が映る番組を放送する際、映る長さなどの不公平さがでないようにするためにどのような対応をしているのか。横浜人図鑑は終了してしまったが、アーカイブとして残すことができた点に意義があったと思う。新番組に関してはタレントの事務所の都合もありそうだが、ぜひ検討いただきたい。J:COM の価値を上げる上でも、異なった媒体とコラボする等いいアイデアを出して行ってほしい。

事業者 取材する側としては対面の方が色々な話を引き出せてよいが、感染対策の一環としてリモートや電話取材を行っている。この何年間でノウハウは蓄積されてきているので、どのように有効活用していくのが今後の課題でもある。青少年に関してはある程度映像で判断し公平を保つようにしているが、最近は家庭環境等で逆に出たくないという子も非常に多く、注意して取材するようにしている。タレントが出演する番組に関しては権利上アーカイブ化が難しいと聞いているが、制作している担当者に確認する。番組制作については、制作スタッフと地域プロデューサーと呼ばれる現場スタッフでうまく連携し、新しい情報を吸い上げるようにしていく。

委員 若者を中心にインターネットを利用し、個人で情報収集するスタイルに変化してきている。コロナの影響で在宅の時間が増えてきた中で、ケーブルテレビの視聴スタイルにどのような変化があったのか調査はしているのか。

事業者 視聴率として数字は取り纏めているが、地上波等の算出方法とは異なり、巣籠の影響で数値が上がっているかは判別が難しい。ただ、コロナ禍での在宅時間の増加により視聴時間は増えている。同じ番組でも昼間より深夜帯の方が、視聴時間が増える傾向にあるが、その紐づけは出来ていない。

委員 時として番組内でのコロナ情報がうるさいという声もあるとのことだが、常に最新の情報を発信していただいて行政の立場としてはありがたい。ワクチン3回目接種の促進にもケーブルテレビは非常に大きな媒体であると認識している。高齢者はインターネットでの情報収集が難しいので、テレビの存在は大きい。どんどん地域に出て新しい層のファンを増やしてほしい。

委員 このコロナ禍だからこそ J:COM でしか出来ないことがあり、地域の情報発信は J:COM でしか出来ない。イベントの取材が難しいのは理解しているが、特に学校とはうまく連携して映像を記録として残してほしい。地域の方はもっと知ってもらいたいと思っており、タレントの方では地域の情報を深掘りすることが難しいのはでないか。地域の声をもっと増やしてもらうためにも J:COM にがんばってもらいたい。

事業者 ご期待に添えるよう努力いたします。

会長 時間となりましたのでここで終了いたします。今日は貴重なご意見ありがとうございました。

以上